

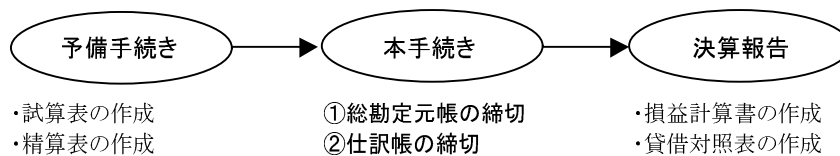
## 第8章 帳簿決算

### ▼決算手続き

仕訳帳、総勘定元帳の記録は一定期間（会計期間）ごとに区切り、その会計期間の経営成績（損益計算書）と財政状態（貸借対照表）を明らかにする。

この帳簿の記録を区切る手続きを『決算』と呼ぶ。

決算には下図のように、試算表や精算表を作成する「決算予備手続き」と、仕訳帳・総勘定元帳を締め切るための「決算本手続き（帳簿決算）」とがある。



### ▼総勘定元帳の締切手順

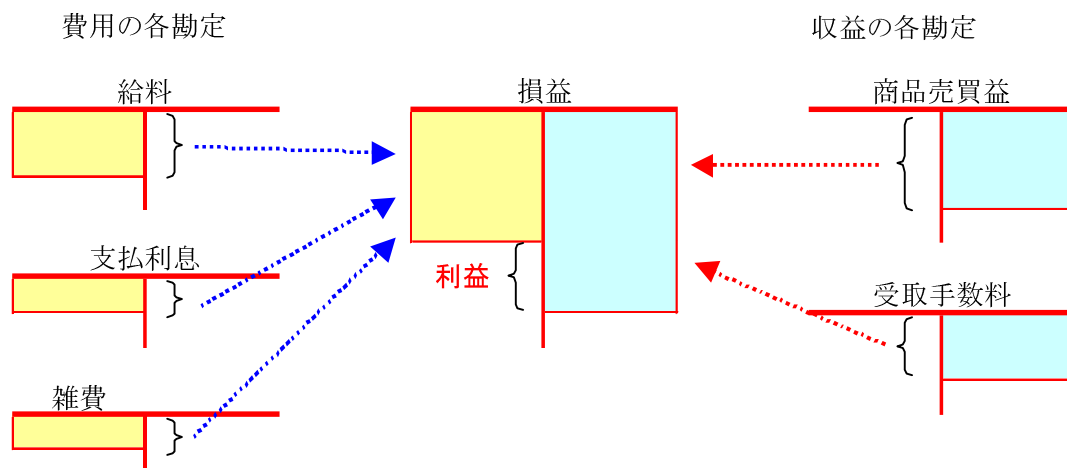
- ①収益・費用の諸勘定の締切
- ②損益勘定（※注）の締切と純損益の資本金勘定への振替
- ③資産・負債・資本の諸勘定の締切
- ④繰越試算表の作成

#### ①収益・費用の諸勘定の締切

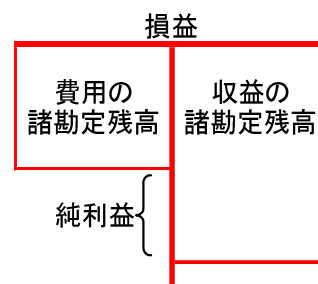
純利益（純損失）を算定するために新たに損益勘定（※）を設け、損益勘定の貸方に収益の各勘定の残高を、借方に費用の各勘定の残高を移し替える。（これを「振替」という）

また、振替のために行う仕訳を「振替仕訳」という。

#### 振替のイメージ

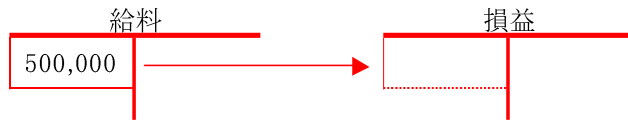


※損益勘定 … 収益・費用の諸勘定を締め切るため、決算時に特別に設ける勘定。

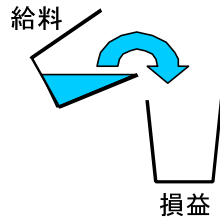


## 振替仕訳の考え方

(例) 給料勘定の借方残高500,000円を損益勘定の借方に振り替えるためには…



→振替とは、例えるなら“給料”というコップの中に入っている水を、“損益”という新しいコップに入れ替えるようなもの。



→ということは、一旦、給料勘定の中身(残高)をゼロにしたうえで、その中身(残高)を損益勘定に移すという作業が必要となる。

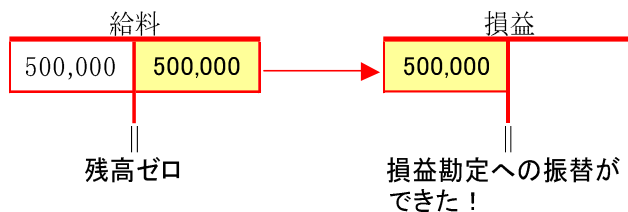
→したがって、給料勘定の貸方に500,000円を記入して給料勘定の残高をゼロにしたうえで、損益勘定の借方に500,000円を記入すれば良い…

→ただし、簿記のルールでは「仕訳を行ってから総勘定元帳に転記」という順番なので、これを実現するための仕訳を考えると…

(借方) 損 益 500,000 / (貸方) 給 料 500,000

…となる。

→上記の仕訳に基づいて転記すると…



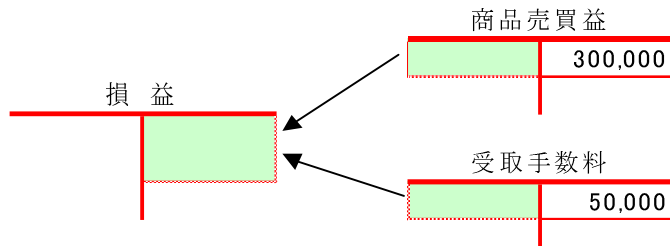
このように振替を行うための仕訳を「振替仕訳」という。

振替仕訳を苦手とする人が多いが、それは『仕訳と転記』の基礎的なルールが身についていないということでもある。上記の考え方が“難しい”と感じた人は、もう一度「第4章 簿記上の取引・仕訳と転記」を復習してほしい。

## 【収益勘定の締切】

商品売買益	受取手数料
300,000	50,000

上記の各収益勘定残高の損益勘定への振り替えを、前頁を参考にイメージすると次のようになる。



したがって、(1)商品売買益勘定と受取手数料勘定の借方に、それぞれ 300,000、50,000 と記入して残高をゼロにし、(2)それらの残高を損益勘定の貸方に記入する振替仕訳を行えば良い。

振替仕訳

12/31	商品売買益	300,000	損益	350,000
	受取手数料	50,000		

あとは、この振替仕訳に基づいて下図のように各勘定に転記すれば良い。

商品売買益	受取手数料
12/31 損益 300,000	12/31 損益 50,000
300,000	50,000

損益
12/31 商品売買益 300,000
" 受取手数料 50,000

※損益勘定だけは他の勘定と異なり、転記の際に相手勘定科目を「諸口」とせずの一つ一つ個別に書くので注意！

## 【費用勘定の締切】

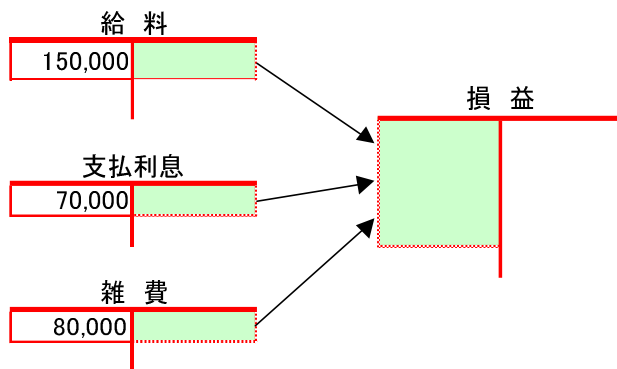
費用の各勘定も前頁の収益同様に締め切ればよい。

給 料	雑 費
150,000	80,000

支払利息
70,000

※振替のイメージ



振替仕訳

12/31	損 益	300,000	給 料	150,000
			雑 費	80,000
			支払利息	70,000

上記の振替仕訳を各勘定に転記すれば良い。

給 料	雑 費
150,000    12/31 損益    150,000	80,000    12/31 損益    80,000

支払利息
70,000    12/31 損益    70,000

損 益
12/31 給料    150,000    12/31 商品売買益 300,000
〃 雑費    80,000    〃 受取手数料 50,000
〃 支払利息    70,000

## ②損益勘定の締切と純損益の資本金勘定への振替

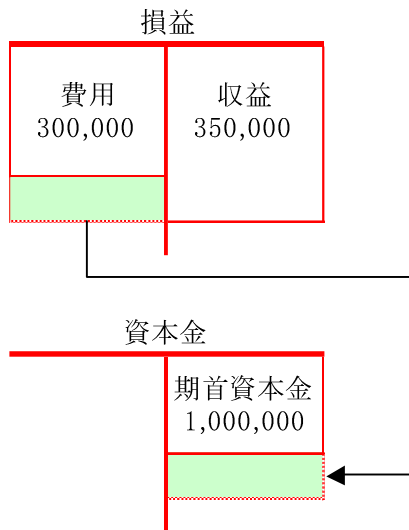
前頁までの①の段階で、収益・費用の各勘定を締め切ることができた。

更に損益勘定の貸方には収益の各勘定の残高が、借方には費用の各勘定の残高が集まったことになる。

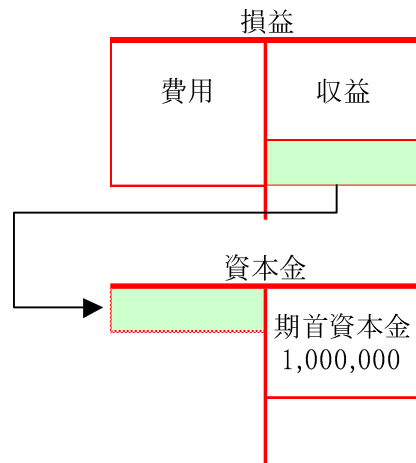
したがって、損益勘定の貸借差額は当期純利益（純損失）を示す。

第3章で学習したように純利益（純損失）は期首資本金の増減を意味するため、次のステップとして、この損益勘定の差額を資本金勘定へ振り替える。

## 【当期純利益の場合】



## 【当期純損失の場合】



今回は当期純利益だったので、振替仕訳と転記は次のようになる。

振替仕訳

12/31 損益 50,000 資本金 50,000

損 益					
12/31	給料	150,000	12/31	商品売買益	300,000
〃	雑費	80,000	〃	受取手数料	50,000
〃	支払利息	70,000			
〃	資本金	50,000			
		350,000			350,000

資本金		
		1,000,000
12/31	損益	50,000

## ③資産・負債・資本の諸勘定の締切（英米式）

資産・負債・資本の諸勘定の残高を朱書きで「次期繰越」として記入し、貸借バランスを一致させ締め切り、次行の反対側に「前期繰越」として繰り越された金額を記入するだけでよい。

現金		1
800,000		350,000
50,000	12/31 次期繰越	500,000
850,000		850,000
1/1 前期繰越	500,000	

売掛金		2
100,000		50,000
150,000	12/31 次期繰越	200,000
250,000		250,000
1/1 前期繰越	200,000	

商 品		3
800,000		550,000
200,000	12/31 次期繰越	600,000
150,000		
1,150,000		1,150,000
1/1 前期繰越	600,000	

備 品		4
200,000	12/31 次期繰越	200,000
1/1 前期繰越	200,000	

買掛金		5
200,000		300,000
12/31 次期繰越	200,000	100,000
400,000		400,000
	1/1 前期繰越	200,000

借入金		6
50,000		300,000
12/31 次期繰越	250,000	
300,000		300,000
	1/1 前期繰越	250,000

資本金		7	
12/31 次期繰越	1,050,000	1,000,000	
		12/31 損益	50,000
	1,050,000		1,050,000
		1/1 前期繰越	1,050,000

## ④繰越試算表の作成

資産・負債・純資産の各勘定の締切が終わったら、繰越記入が正しいかどうかを検証するための試算表（これを「繰越試算表」という）を作成する。

繰越試算表				
平成○年12月31日				
借方	元 丁	勘定科目		貸方
500,000	1	現	金	
200,000	2	売 掛	金	
600,000	3	商	品	
200,000	4	備	品	
	5	買 掛	金	200,000
	6	借 入	金	250,000
	7	資 本	金	1,050,000
1,500,000				1,500,000

以上で総勘定元帳の締切は終了。

## ▼仕訳帳の締切

仕訳帳の締切は、(1)一会計期間の取引の記入が終わった時に一度締め切り、(2)決算仕訳の記入後にもう一度締め切る。また、新しい会計年度の開始日の日付で「前期繰越高」として、繰越試算表の合計金額を記入する。

仕 訳 帳				
平成 ○年	摘要	元 丁	借方	貸方
	(途中省略)			
3 30	(雑 費) (現 金) 営業費支払い		8,000	8,000
			1,450,000	1,450,000

(1)一会計期間  
が終わった時点  
での締め切り

仕 訳 帳				
平成 ○年	摘要	元 丁	借方	貸方
3 31	決 算 仕 訳			
	諸口 (損 益)			350,000
	(商品売買益)		300,000	
	(受取手数料)		50,000	
	収益勘定を損益勘定へ振り替え			
	(損 益) 諸口			300,000
	(給 料)		150,000	
	(雑 費)		80,000	
	(支払利息)		70,000	
	費用勘定を損益勘定へ振り替え			
	(損 益)		50,000	
	(資本金)			50,000
	当期純利益を資本金勘定へ振り替え			
			700,000	700,000

(2)決算仕訳後  
の締め切り

仕 訳 帳				
平成 ○年	摘要	元 丁	借方	貸方
4 1	前期繰越高		1,500,000	1,500,000

## 【練習問題 9】

熊本商店の決算日における下記の勘定記録によって、次の各問いに答えなさい。

現金 500,000	売掛金 300,000	買掛金 150,000
商品売買益 250,000	受取手数料 100,000	給料 200,000
支払利息 80,000	雑費 20,000	

- (1) 収益の各勘定の残高を損益勘定に振り替えるための仕訳を行いなさい。

(借方)		(貸方)	

- (2) 費用の各勘定の残高を損益勘定に振り替えるための仕訳を行いなさい。

(借方)		(貸方)	

- (3) 損益勘定の貸借差額(純利益または純損失)を資本金勘定に振り替える仕訳を行いなさい。

(借方)		(貸方)	



# 解答

## 【練習問題 9】

(1)

(借方)		(貸方)	
商品売買益	250,000	損 益	350,000
受取手数料	100,000		

(2)

(借方)		(貸方)	
損 益	300,000	給 料	200,000
		支払利息	80,000
		雑 費	20,000

(3)

(借方)		(貸方)	
損 益	50,000	資本金	50,000